上吊式引戸金具に関するQ&A

Q1 上吊式引戸システム金具を玄関の戸や雨戸に使えますか?

A1 使えません。
上吊式引戸システム金具は、屋内に使用されることを前提に開発された商品です。そのため屋外の様々な自然現象に対応できる素材や表面処理にはなっていません。
屋外で使用されると雨による腐蝕の発生や、風やホコリによる音鳴りや走行不良が起きる可能性があります。またレールと建具の間にわずかな隙間を必要とするため、雨が吹き込んでしまうこともあります。

Q2 天井高で、戸幅が狭い引戸にソフトクローズを取付けたところ、扉の操作感がよくありません。どうしてですか?

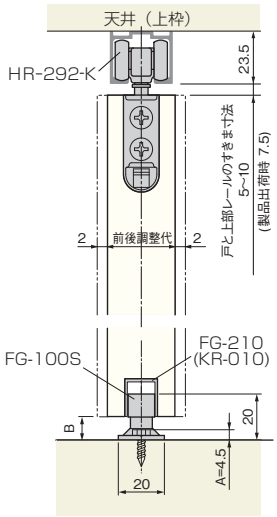
A2 引戸の重心と、引手の位置の相性が悪いと起こる現象です。
引手を重心に近い高さに取付ける事で、改善します。
また、戸の質量が軽すぎる場合にも同様に操作感が悪く感じる場合があります。戸の質量が10kg以下になる場合には注意が必要です。

Q3 開口が広いので、幅の広い引戸にしたいのですが、引戸1枚の最大戸幅の目安はありますか。

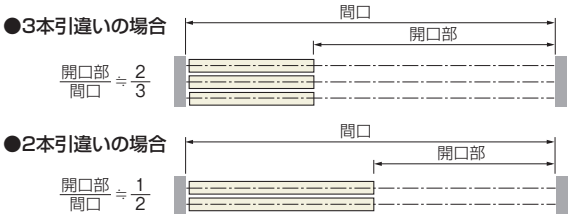
A3 引戸の戸幅が極端に広いと、引戸に反りやゆがみが生じやすくなるため、引戸の走行やソフトクローズの機能に支障をきたすおそれがあります。そのため、弊社では最大戸幅は1,300mm以内でご使用いただくことをおすすめしています。ただし、引戸の幅を広めにした場合でも、各引戸システムに応じた「引戸の総質量」は超えないようにご注意ください。

Q4 HRシステム引戸用で(下部ガイドにはFG-100Sを使用)、717ページの設計ガイド「金具の納まり参考図」中の「戸の高さ寸法の求め方」によると、上下の隙間合計寸法(上部レールと戸の隙間+下部隙間)は20.5mm必要となりますが、もっと少なくすることはできませんか?

A4 できます。設計ガイドにおける「戸の高さ寸法の求め方」は、上部吊り車が有している上下調整範囲をフルに活用できることを条件に式を設定しています。もし、上部隙間を最大までとる必要がないとお考えの場合は(すなわち、調整代をそんなに必要としない)、その分隙間を少なくすることができます。
ただし、調整代は現場での思わぬ寸法誤差やたわみなどに対応できるようにとの考えから設定されていますので、調整代が少なくなる程その対応範囲が少なくなるということは予めご承知ください。



●戸の高さ寸法の求め方
戸の高さ=枠の内寸高さ−23.5mm(上部レール)−10mm(戸と上部レールの最大すきま)−3mm※−A
隙間を少なくしたい場合は、ここの寸法を10mm以下(ただし5mm以上)に設定する
※上式で戸の高さを求めることにより、「戸と上部レールのすきま寸法範囲」で戸の上下調整ができます。
※上式の3mm※は、戸を下に調整した際、戸を下部ガイドに接触させないための逃げ寸法です。

Q5 間口に対して開口部を広くとりたい場合に適した引戸の納まりを教えてください。

A5 同じ間口でも2本引違いより3本引違いにした方が、開口部として広くとれます。最近では、高齢者対応住宅の車椅子利用を考慮して、引戸でも開口部を広くとれるものを望まれる方が多くなってきました。このようなケースのために、弊社では車椅子の利用に適した下レールなしの「連動引戸システム金具」を用意しています。